

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2校舎教室
担 当 教 員	東正美・仲村剛・岩村一成 林了大・澤卓実・福士暁也	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療現場で患者さんに施術を行うためには、判断をするための知識が必要になります。判断するためにはヒトの身体について、専門以外にも科目横断的に理解しておく必要があります。そのために、この講義では科目横断的な視点から俯瞰的に判断できるようになるための知識を培います。						
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験： 100% 2. レポート： % 3. グループワーク中の態度・発表： %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学・生理学・病理学・一般臨床医学・柔道整復学(全国柔道整復学校協会編集) 適宜資料の配布を行う						
《授業外における学習方法》 授業の進行とともに、科目横断的な理解が必要となりますので、各回ごとに教授内容を事前告知しますので、履修済科目の復習を行ってきてください。						
《履修に当たっての留意点》 ①疑問点は質問をして、その場で解決させること。 ②この科目の理解を深めるためには予習と復習の両方が必須です。单元ごとに遅れの出ないように予習と復習を行ってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する①	解剖学 生理学 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションと総論Ⅰ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する②	解剖学 生理学 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	総論Ⅱ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	総論Ⅲ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液と外傷の関連性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	血液の組成と働きと創傷治癒			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液と外傷の関連性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	血液の循環と創傷治癒			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の働きと外傷の関連性を理解する	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器の働きと機能		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の働きと高齢者に多い疾患について①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器の働きと機能と関連する疾患①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の働きと高齢者に多い疾患について②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器の働きと機能と関連する疾患②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体に必要な栄養素の欠乏症を理解する	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	栄養と代謝		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系の構造と働きを理解し、関連する疾患を身に付ける①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器系と吸収について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系の構造と働きを理解し、関連する疾患を身に付ける②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い消化器系の疾患について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系の働きとホルモンの種類①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌の種類と視診鑑別が必要な疾患について①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系の働きとホルモンの種類②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌の種類と視診鑑別が必要な疾患について②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系の働きとホルモンの種類③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌の種類と視診鑑別が必要な疾患について③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系の働きとホルモンの種類④	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌の種類と視診鑑別が必要な疾患について④		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2校舎教室
担 当 教 員	東 正美・専任	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
運動器系の疼痛・診察の鑑別診断・整復固定・後療法 スポーツ外傷 軟部組織損傷の診察の鑑別・検査法						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 適宜資料の配布を行う						
《授業外における学習方法》						
次回授業内容を確認するため、第1回目授業時に授業計画を配布することにより、学生は事前学習を行うとともに小テストなどで確認する						
《履修に当たっての留意点》						
疑問点は質問し、日々の反復復習をしっかりと行ってください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	体温と疾病の関連性について理解する。		解剖学・生理学 病理学・一般臨 床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	体温とその調節				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する①		解剖学・生理学 病理学・一般臨 床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	骨の構造と疾病と外傷①				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する②		解剖学・生理学 病理学・一般臨 床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	骨の構造と疾病と外傷②				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する③		解剖学・生理学 病理学・一般臨 床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	骨の構造と疾病と外傷③				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する①		解剖学・生理学 病理学・一般臨 床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	筋の構造と疾病と外傷①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷②		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷③		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する④	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷④		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷②		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷③		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する④	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷④		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と外傷の関連性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	運動器系疾患と外傷①		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と外傷の関連性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	運動器系疾患と外傷②		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体の構造と外傷・疾患の関連性を判断できるようになる。	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ		